



中村芝翫作  
香蝶楼国貞画

甲午孟春  
新刊

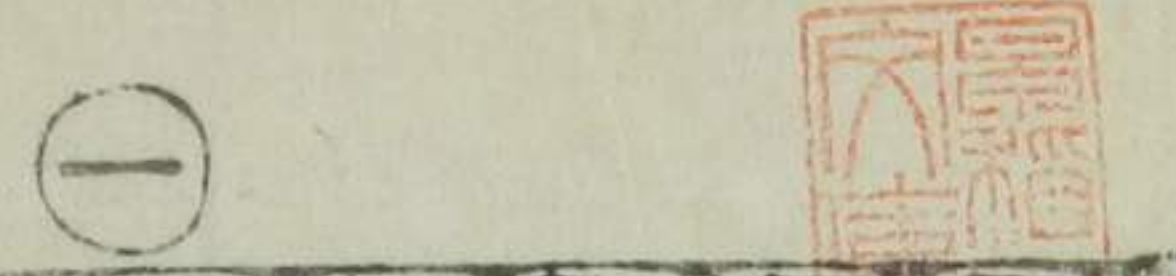
上  
2378  
371



花乃おの戸に軍さまの御負御様方ひまうの不及流津國津く浦く  
 茶のあつり。御存子思と自問てふひの言はけり。御負御様の袖を  
 振てはまて七十年。美末木あれはごいふ永く舞臺を踏まへるも  
 かねをみみ御様のあらんと。御ても是ても忘さぬわら御け是波の橋玉  
 よりの。あのいづれと御そのおな御とせむらせん。外へあらうとあましにふ七  
 尺さうておのあ御師匠の命懸止ごごちよろと申入目私ふ立のりは。御と  
 なすくと彼地下するも。あはれは回と平きり。御探の御高比。あをを御りるません

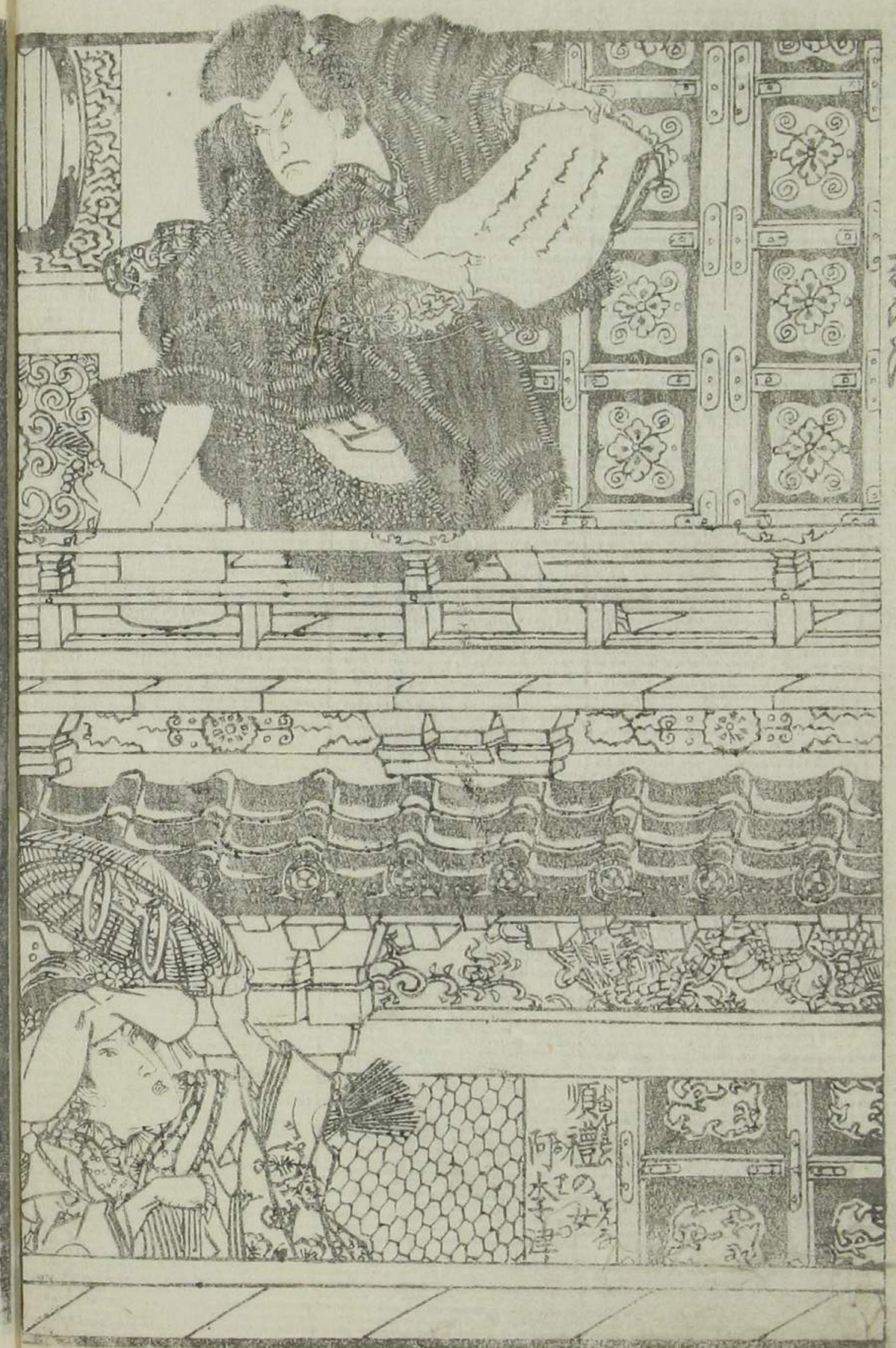
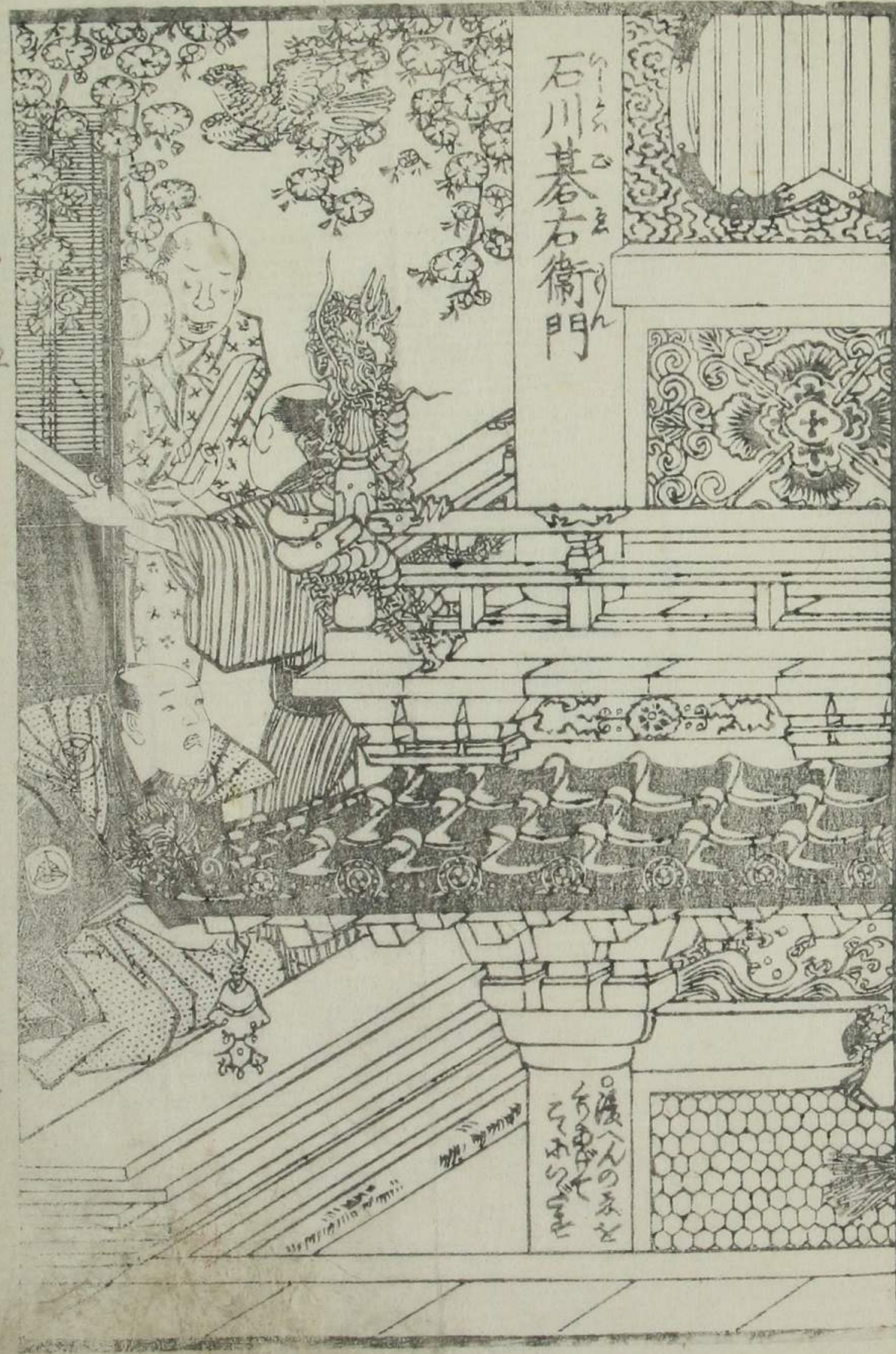
下冊のいづららる

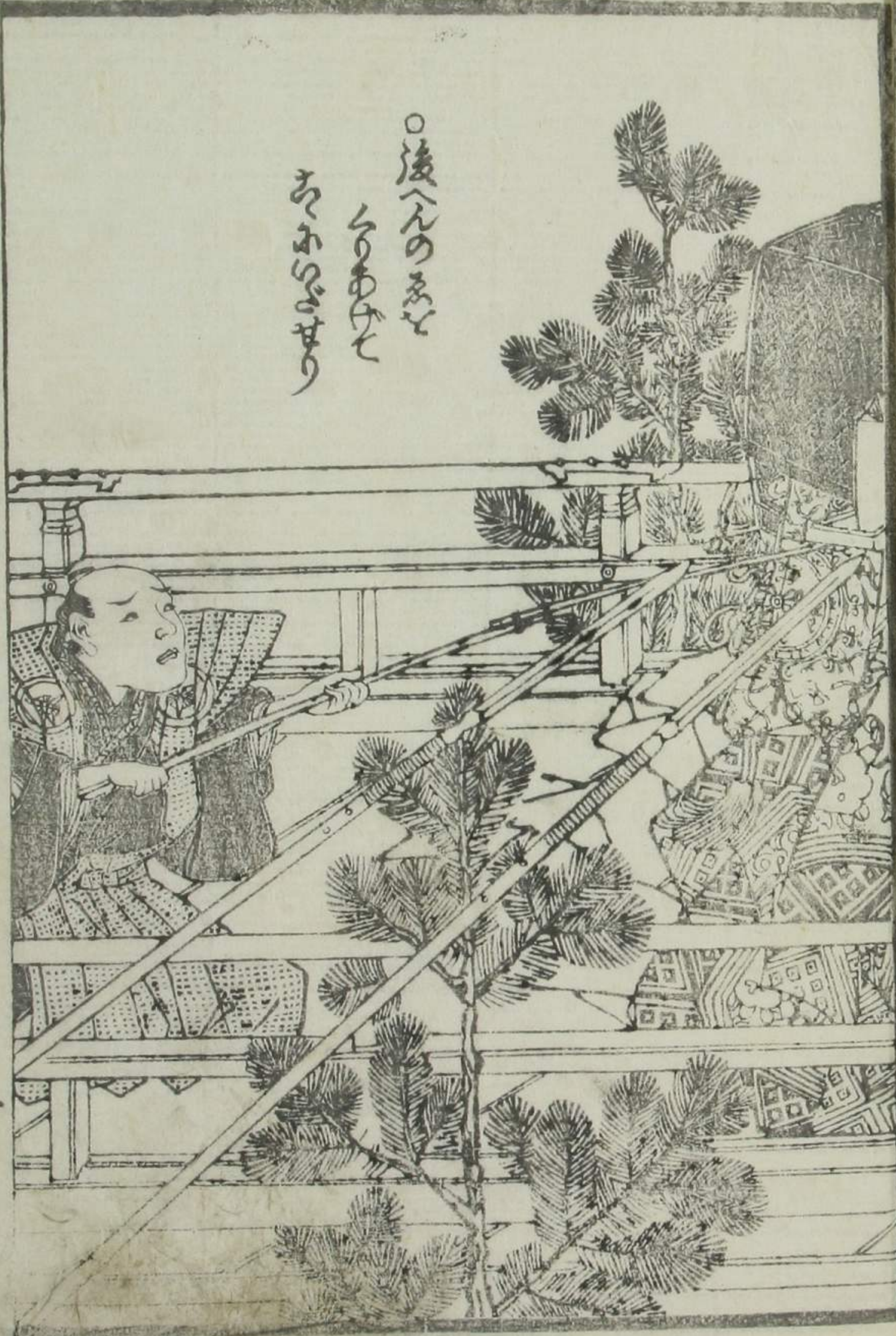
中村芝翫謹白



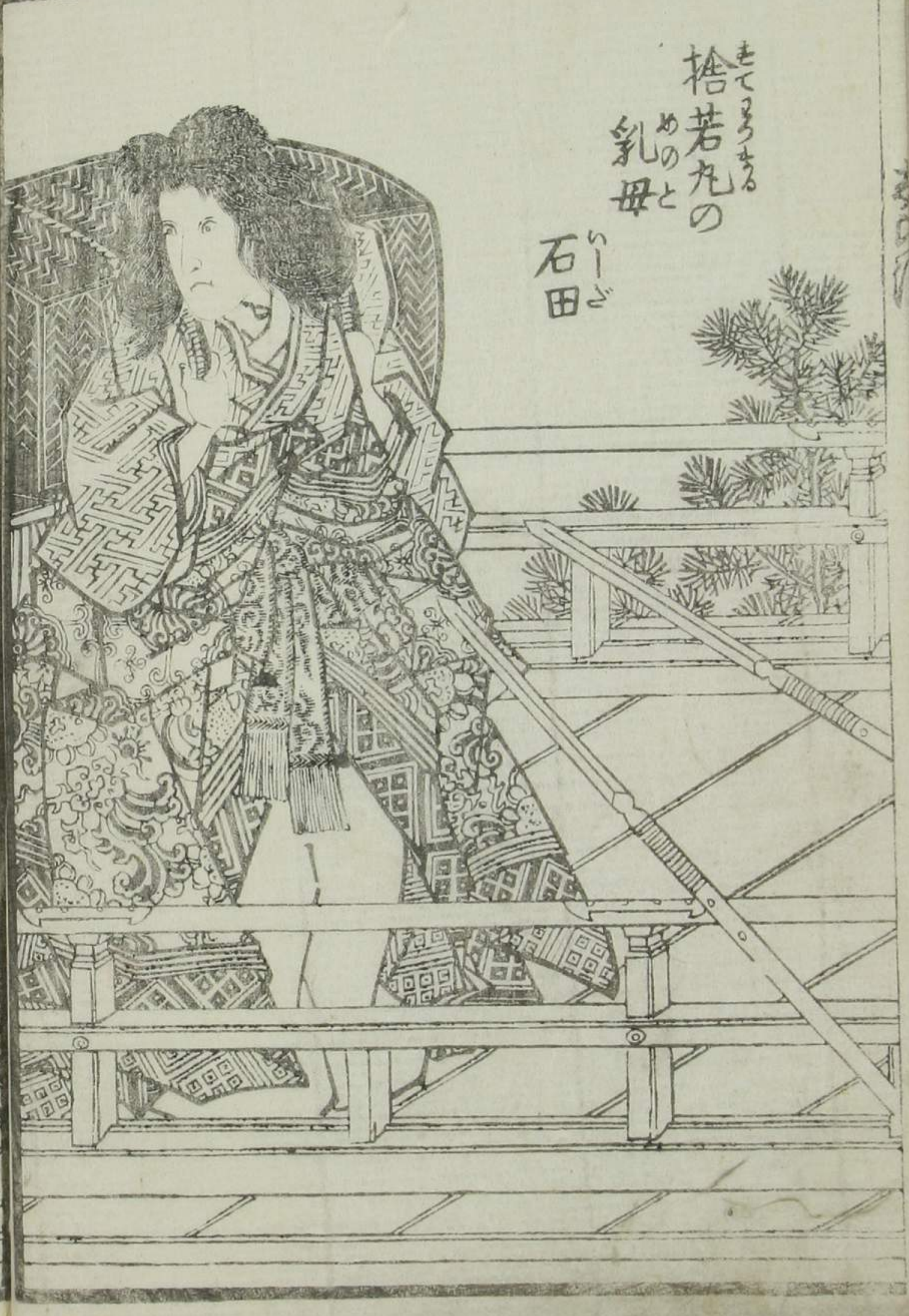
茶番狂言と。吾能優道より。今素衣の移り。我作物の英達  
 素人の祝物なり。當時より吾門新作より来りて。夜雨庵扇舎  
 両子は扱一時の就墨と持し。形ある。大いせに行り。已も原より其心素来も。御れ  
 僅々。唯ある。御り及古し。裏は仮書ら入りて。編の物給ゆのよ。あはれは。御家  
 儀若也。あはれは。在言の儀あり。少く趣向の換はれも。のよ。未は。勝らる。未は。御家  
 池田書振られ。御て人よと示させし。奈何と漏らけ。或人これを知りて  
 類の上木甘んとも。昔のあひ。縮舟の否。果ある。ぬき。上川の。水。昔。あ。拙。ま。と。は  
 終は。榎木よ。上せる。正。成。助。今。を。就。作。の。初。舞。臺。舞。の。下。ら。ん。と。舞  
 雀の巢。おれ。松の。常盤町。ま。十。女。ア。の。色。深。死。由。評。判。を。お。れ。よ。あ。む。

天保五甲午秋春新絵中紙 中村芝翫謹白





○後へのあや  
くのあひて  
あやのあや



まて  
まて  
捨若丸の  
乳母と

石田





ついでにちやんとおぼしめしよまはせよとゆかり  
あるさしおきりかしくもやうみせぬわ  
なりていしとんきもあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちんてい  
せぬそのまはせぬいけぬあつちん  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
てうひすするみまはせぬいけぬあ  
たふれぬあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ

ついでにちやんとおぼしめしよまはせよとゆかり  
あるさしおきりかしくもやうみせぬわ  
なりていしとんきもあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちんてい  
せぬそのまはせぬいけぬあつちん  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
てうひすするみまはせぬいけぬあ  
たふれぬあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ

あつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
てうひすするみまはせぬいけぬあ  
たふれぬあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ

あつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
てうひすするみまはせぬいけぬあ  
たふれぬあつちんてい  
まて松とよぶあやうあつちん  
せぬそのまはせぬいけぬあ  
たは史のりのもまはせぬいけぬあ  
はてまはせぬ女のおまはせぬいけ  
うひすするみまはせぬいけぬあ  
うひすするみまはせぬいけぬあ



大いなる事であるより申す所の  
せうく申す所はついに田の  
おのりのふのちうむん信田の  
小なる事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である



左よりけんぶつからコトを松  
とんからあくく不とよこれのみせのなげんを  
うらととうつのであがらるまをまのそ  
まる松もねるまねるまねるま  
まにであらとせられた七上の  
よんでとこれればあり  
をけりまをうまをうまを

このうまを  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である

せうく申す所はついに田の  
おのりのふのちうむん信田の  
小なる事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である

申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である



だれぬの  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である  
申す所の事である事である事である



下か  
 すぐねらうて...  
 みまがらうて...  
 つるねらうて...  
 ねがまて...  
 ねがまの...  
 ...



のりあ...  
 ...

下か  
 ...



のりあ...  
 ...



おんな

おんなが  
あんなに  
おどろか  
すことな  
らぬ

おんなが  
あんなに  
おどろか  
すことな  
らぬ

おんなが  
あんなに  
おどろか  
すことな  
らぬ

おんなが  
あんなに  
おどろか  
すことな  
らぬ

おんな

おんな

ついでにやうくはまのこが  
 うつりけうちあへり  
 母のいのちのうまひを  
 かりたいと申しつゝ  
 母のいのちをうまひ  
 たりしむるは



母のいのちをうまひ  
 たりしむるは  
 母のいのちをうまひ  
 たりしむるは  
 母のいのちをうまひ  
 たりしむるは

その女は  
 るぢいさか  
 てうけをら  
 男子をて



うまひてやうくあ  
 りのうまひのあ  
 りのうまひのあ  
 りのうまひのあ  
 りのうまひのあ  
 りのうまひのあ

あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては



あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては  
 あつては

あつては

國貞画 ノ芝翫作 の美

〔口〕世のついでにうらましがその野の  
 赤あしきおのまはせんくのうら  
 こひさりのまをうらまはせりぬあふ  
 りぬまのまかたつていぬちあけ  
 らばそなたまのうらぬのなるとあり  
 うたはせぬゆめあふあふせぬあま  
 すていさぬあひあひあひあひあひあひ  
 しうらまをひひあひあひあひあひ  
 まろとまをよひあひあひあひあひ  
 由そごてうらちの井のけんまこ  
 ろるものあひあひあひあひあひ  
 あはそれあひあひあひあひあひ  
 ろうとうエヤ十四ふんあひあひ  
 どゆいあひあひあひあひあひあひ  
 らんまこのまをよひあひあひあひ  
 不ろあひあひあひあひあひあひ  
 うらちうらまをよひあひあひあひ  
 りぬまからんまあひあひあひあひ  
 まのりまあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 ひろのまあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ



上のまの木の  
 ちんまをうが  
 きてうらちと  
 くだぬまを  
 そのうらま  
 のまをうら  
 まをうら  
 まをうら  
 まをうら  
 まをうら

○まの  
 五の  
 四の  
 のま  
 わり

あひあひあひあひあひあひあひ  
 あひあひあひあひあひあひあひ

峰あひあひ

あひあひあひあひあひあひあひ

巨城うら

代りあひ



其表毒  
高砂  
白浪  
竹内梓



下









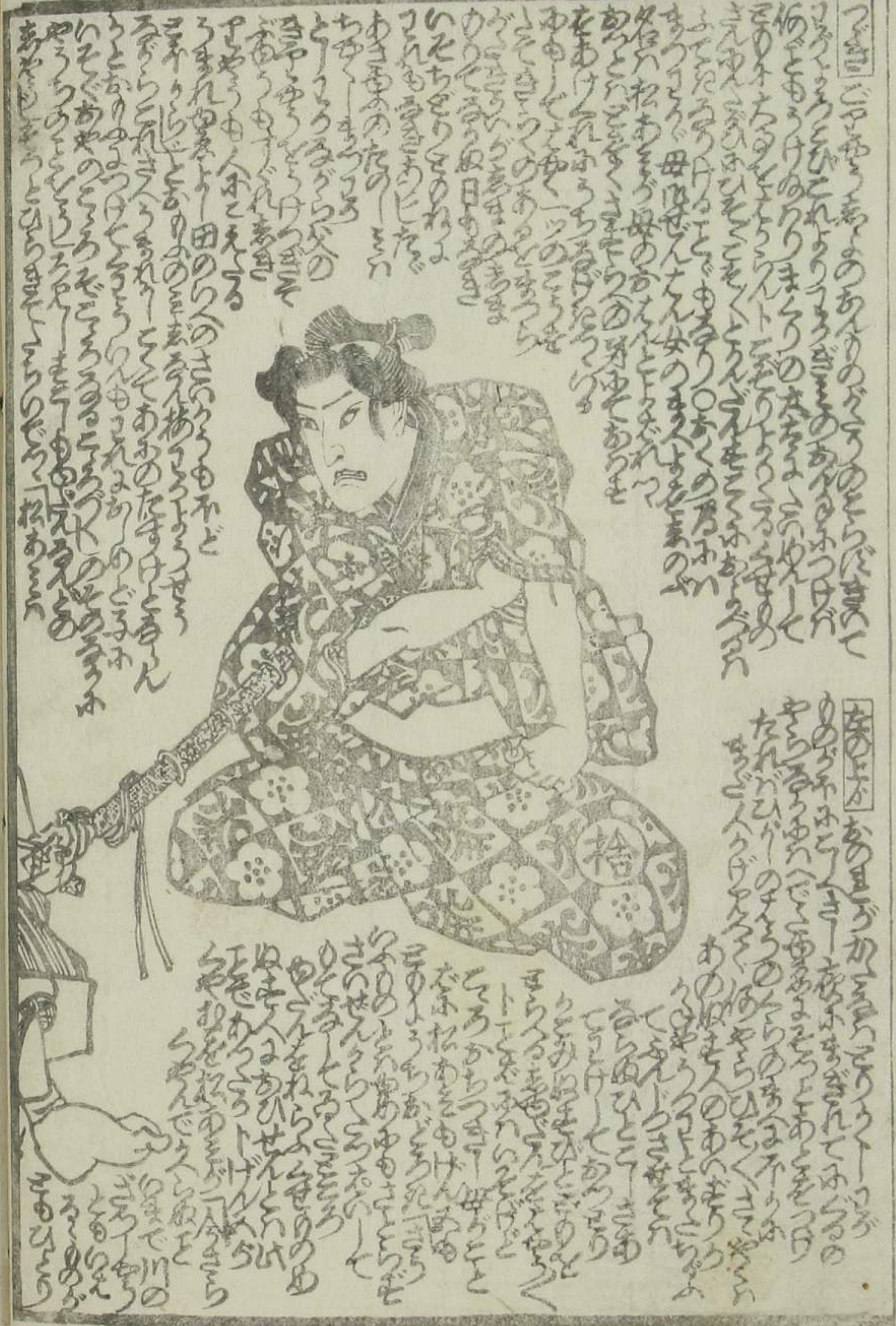






西のそとからあつたの  
 丸とあつたひとこと  
 ぬまみのうへ 右の下

珍  
 西のそとからあつたの  
 丸とあつたひとこと  
 ぬまみのうへ

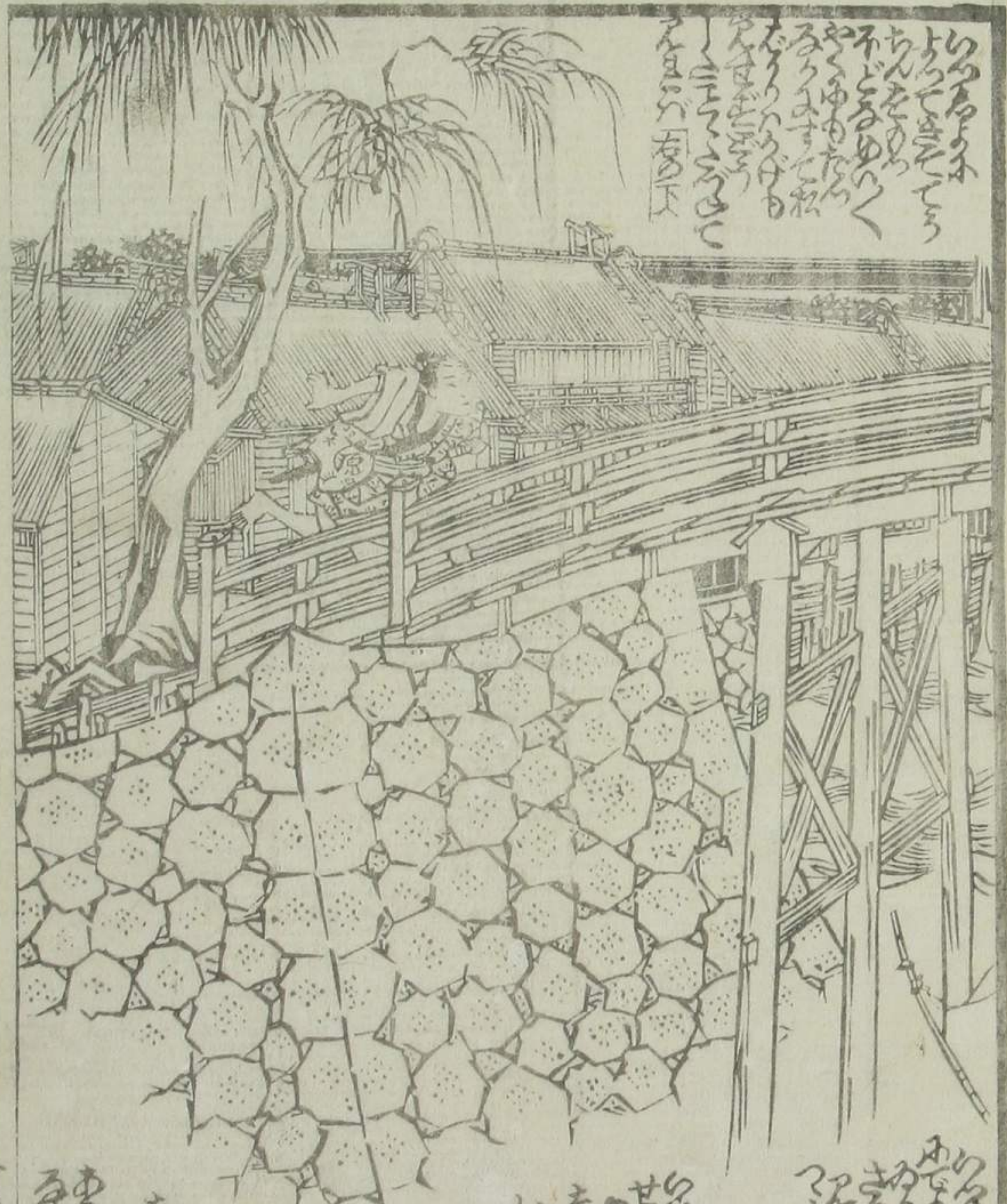


西のそとからあつたの  
 丸とあつたひとこと  
 ぬまみのうへ

珍  
 西のそとからあつたの  
 丸とあつたひとこと  
 ぬまみのうへ



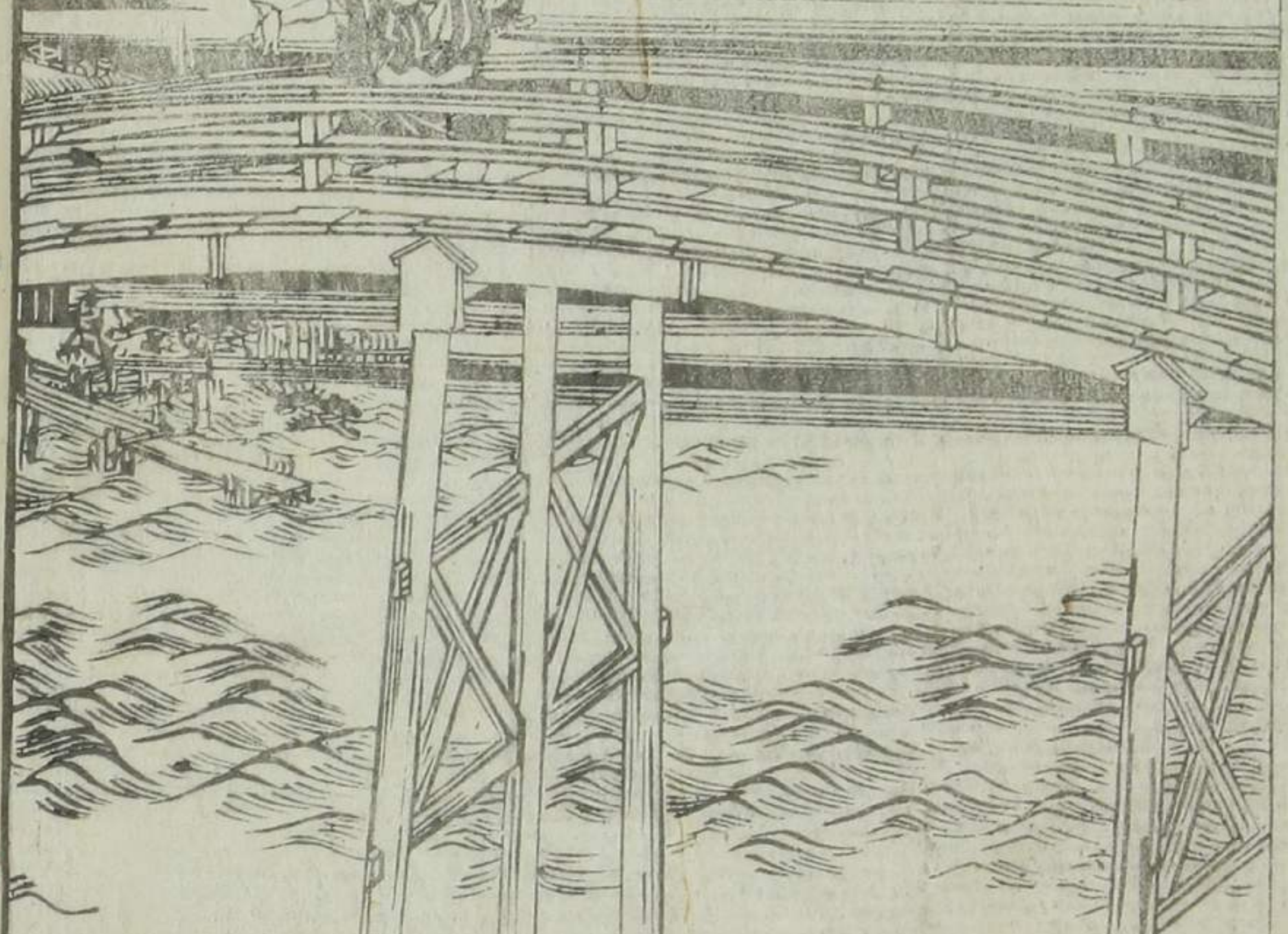




りつあふふ  
 ようてきとて  
 ちんをゆめ  
 不とらぬゆめ  
 やくゆめたか  
 るうよすてね  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ

りつあふふ  
 ようてきとて  
 ちんをゆめ  
 不とらぬゆめ  
 やくゆめたか  
 るうよすてね  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ

ちんをゆめ  
 不とらぬゆめ  
 やくゆめたか  
 るうよすてね  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ



ちんをゆめ  
 不とらぬゆめ  
 やくゆめたか  
 るうよすてね  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ  
 ちんをゆめ





香蝶樓國貞画 〇〇 中村芝翫作 〇〇



天保五甲午新鐫史目録

中村芝翫作  
其裏梅真砂白浪 前編 四冊

坂東秀朝作  
大和錦守袋 四冊

墨川亭雪磨作  
紫系鹿子 中本袋入二冊

美艷仙女香 京本有限  
美女玄香 坂本氏

墨川亭雪磨作  
大小散恨の較鞘 前後 八冊

北尾重政画  
三国太郎再来傳 六冊

越谷山人述  
新戯曲百人一首 中本冊

江戸靈巖島鹽町 保永堂  
竹地本問屋竹内孫八板



其  
 真  
 之  
 破  
 芝  
 翫  
 作  
 國  
 貞  
 画  
 新  
 鑄  
 編  
 二



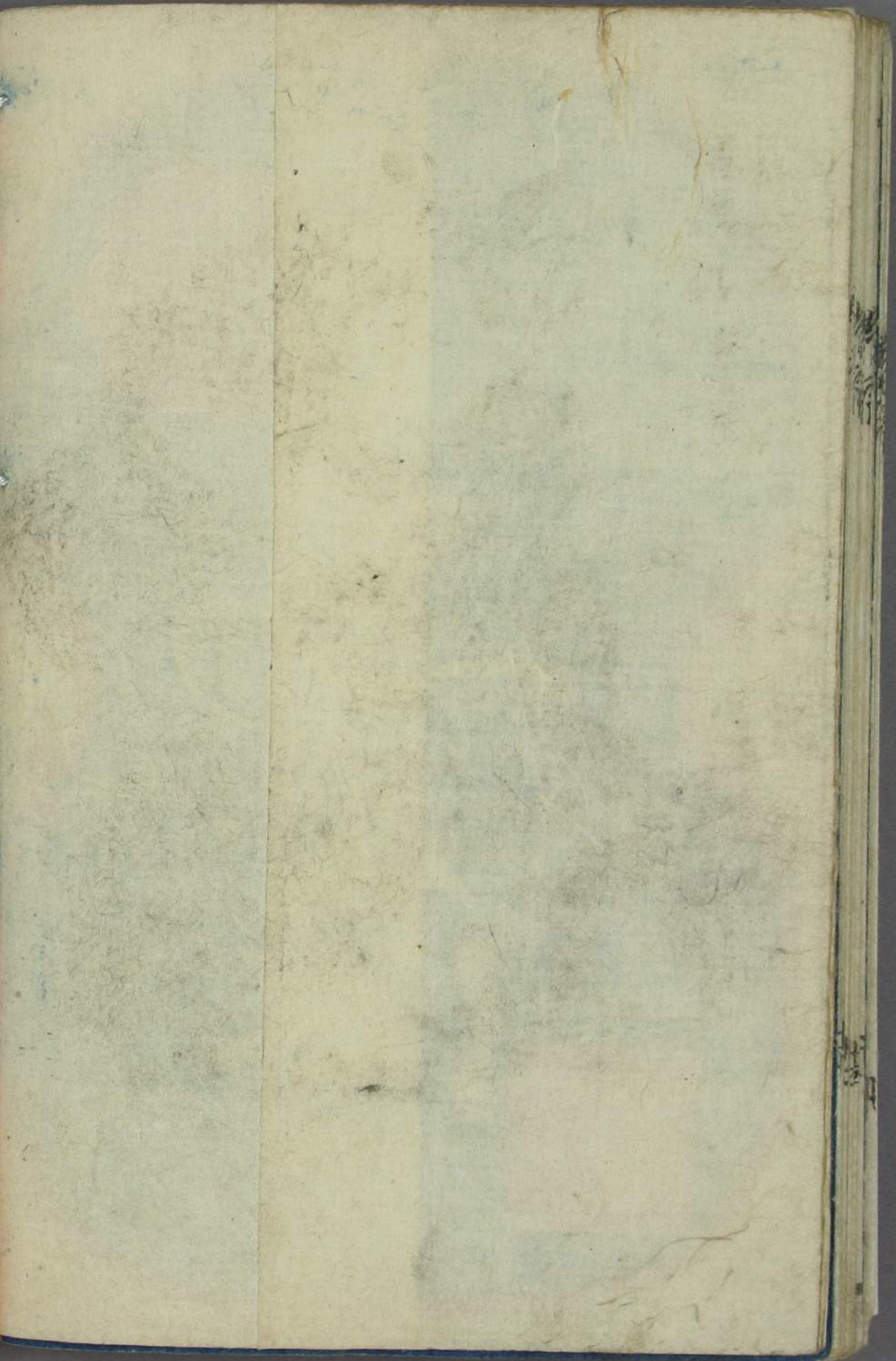

天保五甲午之春





其裏杏  
白浪  
真破之

二編之五



このまゝに大坂表芝翫方  
江戸哥川國貞方送り  
たそのまゝに送りし

一  
 此のまゝに大坂表芝翫方  
 江戸哥川國貞方送り  
 たそのまゝに送りし



清一流掬ッ浮きんめ  
 あつて心魂てつし新  
 出な流もる多流 清  
 出な流もる多流 清  
 出な流もる多流 清

此のまゝに大坂表芝翫方

江戸哥川國貞方送り







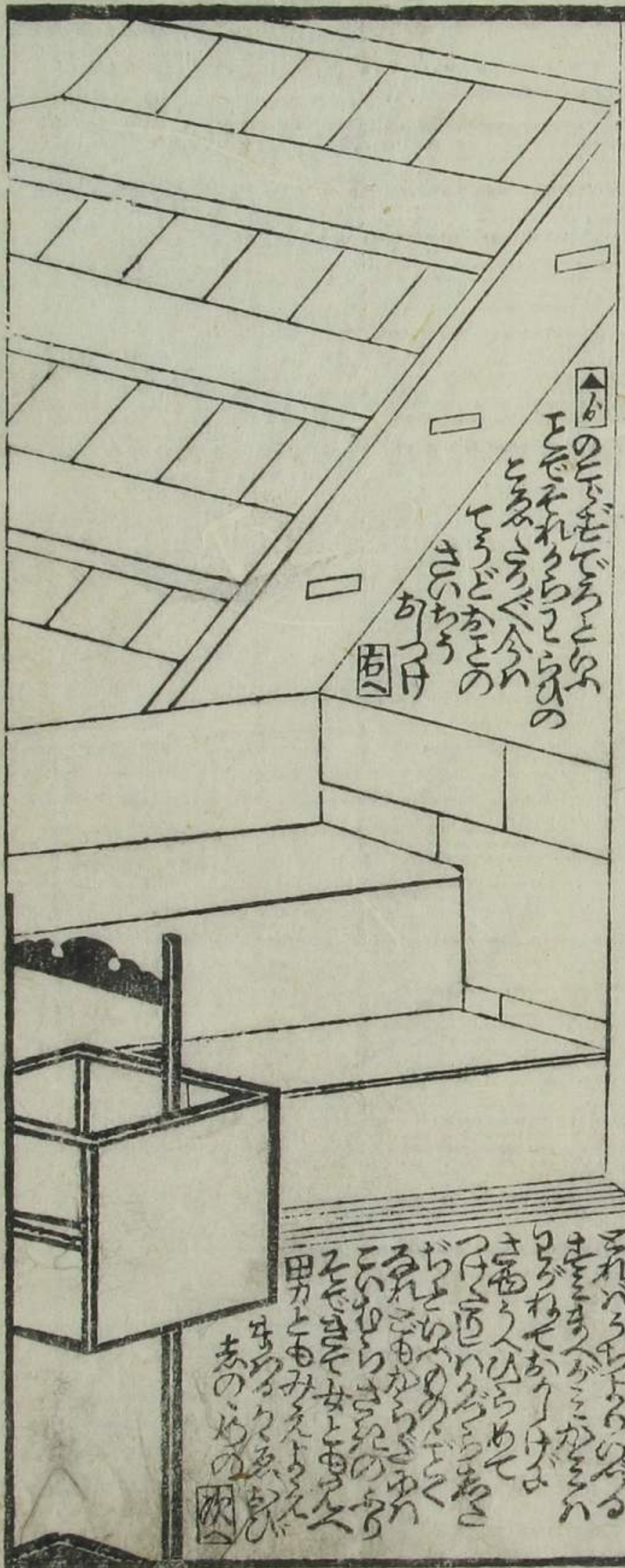












かゝ女中がよぶまうり  
 そののあふへへんまうり  
 そのころころとそとと  
 ま死のたまひと  
 ところがさそと  
 くしの大あつと  
 あつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと  
 どうもつとあつと

みせにあらうらら  
 そつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと  
 けつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと



右の  
 左の  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと

あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと  
 あつとあつとあつと







中村芝翫作  
香蝶樓國貞画

二編之下

保永堂版











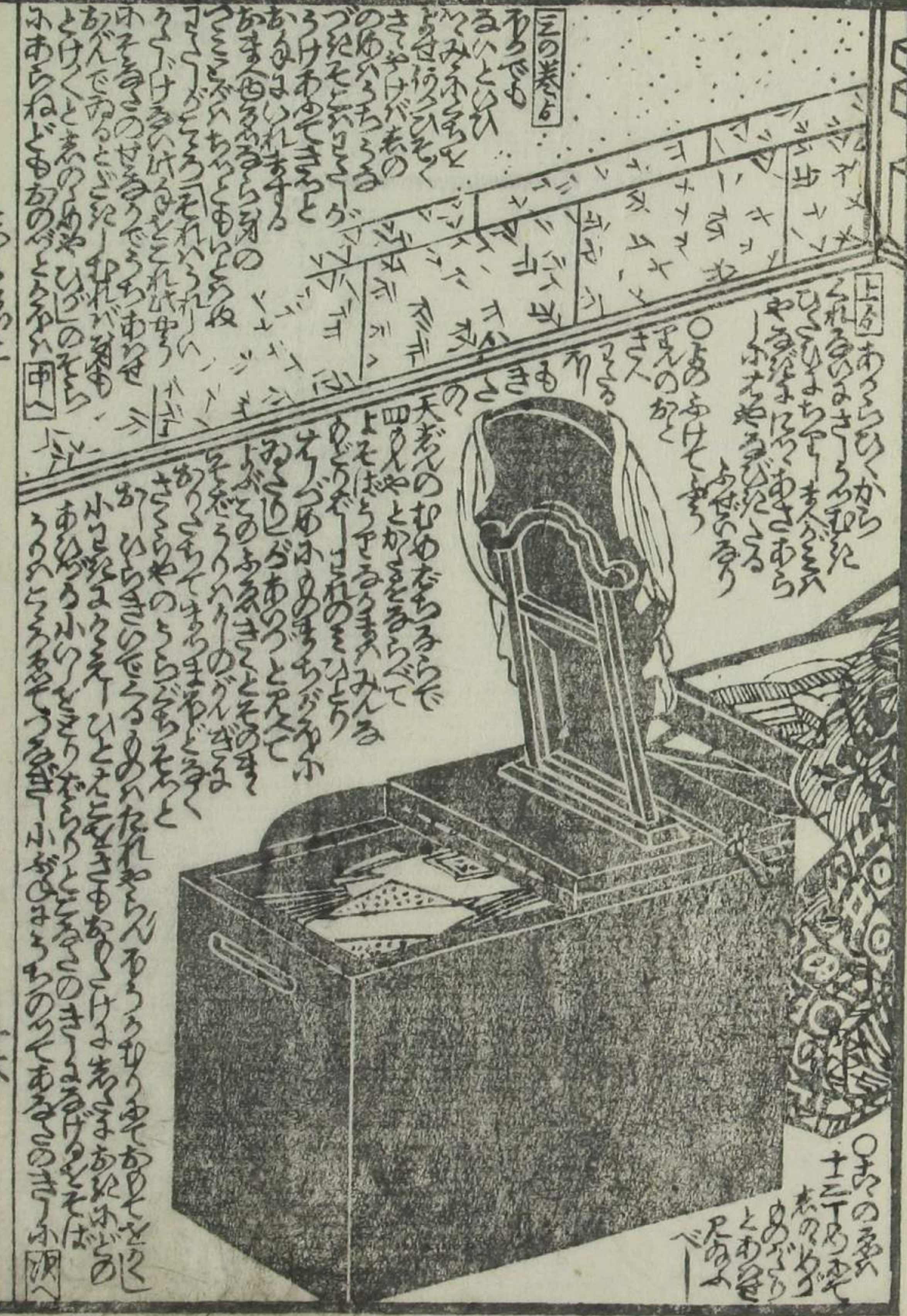




あはれと云ふは...  
この世のうらみ...  
いふは...  
あはれと云ふは...  
この世のうらみ...  
いふは...



あはれと云ふは...  
この世のうらみ...  
いふは...  
あはれと云ふは...  
この世のうらみ...  
いふは...











そのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが  
それのまゝに工をなすはむづかしいが

またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと



またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと  
またまたと



天保五年甲午新鑄神史目錄

<p>美 玄 香 一頁平八柄 美 玄 香 一頁平八柄 美 玄 香 一頁平八柄</p>	<p>其裏梅真砂白浪 四冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>五大力 大和錦守袋 四冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>丹七 太露恨の較鞘 四冊 北尾重政画</p>
<p>竹 戶問屋 竹内孫八板 地本永保永堂</p>	<p>同志浪二編 四冊 香蝶樓國貞画</p>	<p>新工 戲曲百人一首 袋入 越谷山人述</p>	<p>三國太郎再來傳 六冊 一勇齋國芳画</p>



香蝶樓國貞画 商山亭芝翫作





江戸大坂橋尺口序中村芝翫 市村家橋合作  
 芝翫 大坂の橋あたら五橋の何も様へ狂言中橋お邪を返り  
 俾正大江の橋あたら五橋の何も様へ狂言中橋お邪を返り  
 三橋も仕ら何の思案も難波橋兩國橋の長口上へ新橋お返し  
 其裏梅とまうを合巻御叱も荒和布橋とそんの外御意の協評  
 判も高橋よりその圖の乗地で三枚橋の三編め小書かてり地蔵橋の類も  
 二度とやりの愛敬と失ふて恐大橋をらして駒留橋と等と止下乃巻  
 末もよの中村と市村の送道と取中の橋と中下地の敷寄屋橋の意  
 町親父橋不用わらるるえ出の猿子橋の猿が人真似不足戯作も





半藪



婿竹

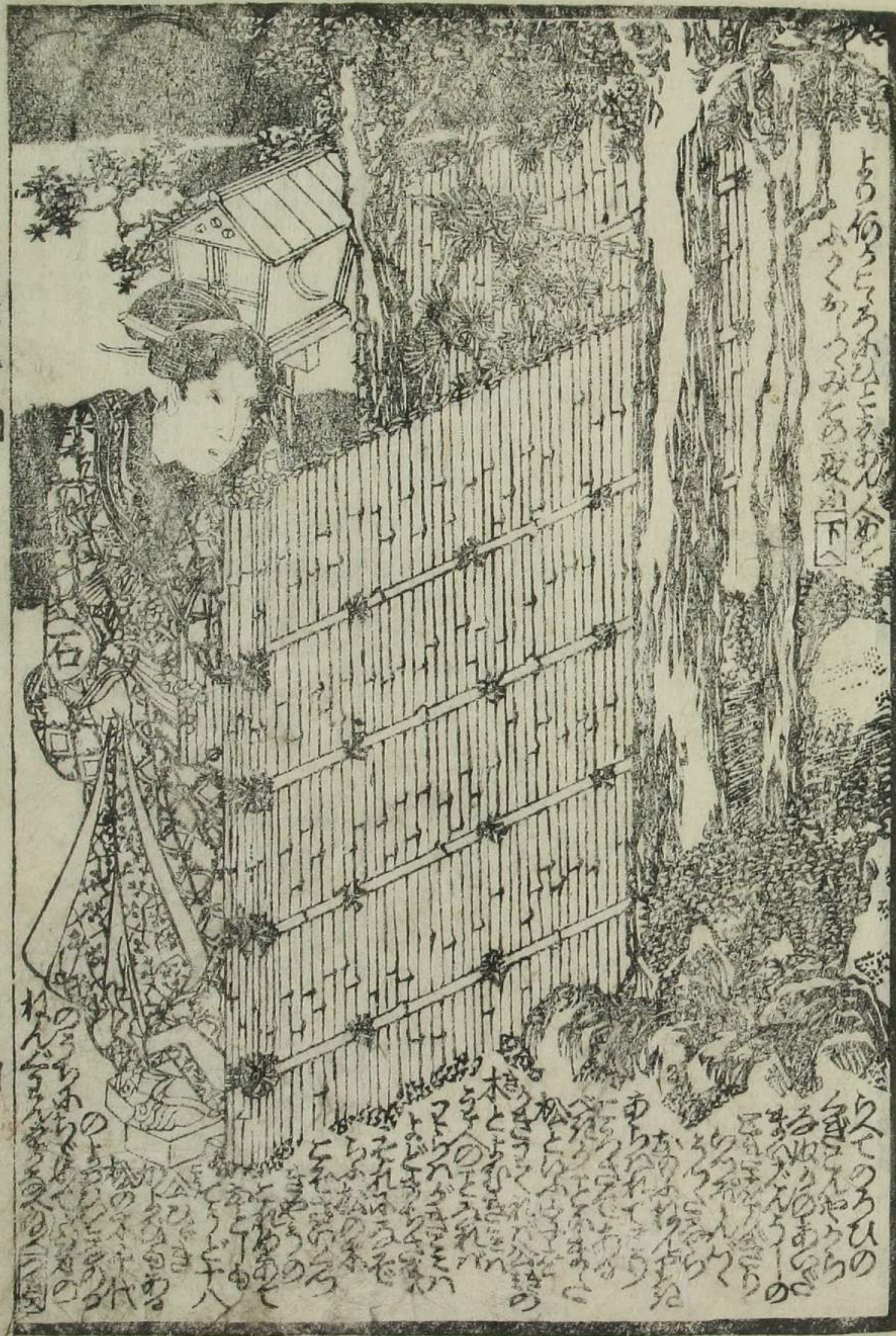
三編ゆ木竹橋を継橋や反の合さる太鼓橋亀戸橋を遠くまで日本橋  
 不知きたる。國貞の繪の力辨慶橋より強いの。頼み田笠の橋々  
 此縣合の口上斜小構る扇橋趣向の要と口づら聞書おせ草稿の  
 細工の結果と倭橋今が日の出の若者と唐高麗橋の知祥とも  
 和國橋での御評判とんと橋あるれ貝久員の第市村のゆるま牛馬を  
 兼かへとも皆足橋や山満足永久橋の幾久く女見の橋は皆の程ひと  
 へ願揚慕らる家お敬て白ス 天保六乙未春新合巻



ちんちん  
氏繩男  
すてつ  
捨若丸



あはづの  
栗津公羽  
おまめ  
七浦



より何れちあみひとあかみ  
ふくかつかつみとる夜下

りてのうひの  
あみひとあかみ  
ふくかつかつみとる  
夜下



月よりあかみひとあかみ  
ふくかつかつみとる夜下

上白くへるあかみひとあかみ  
ふくかつかつみとる夜下

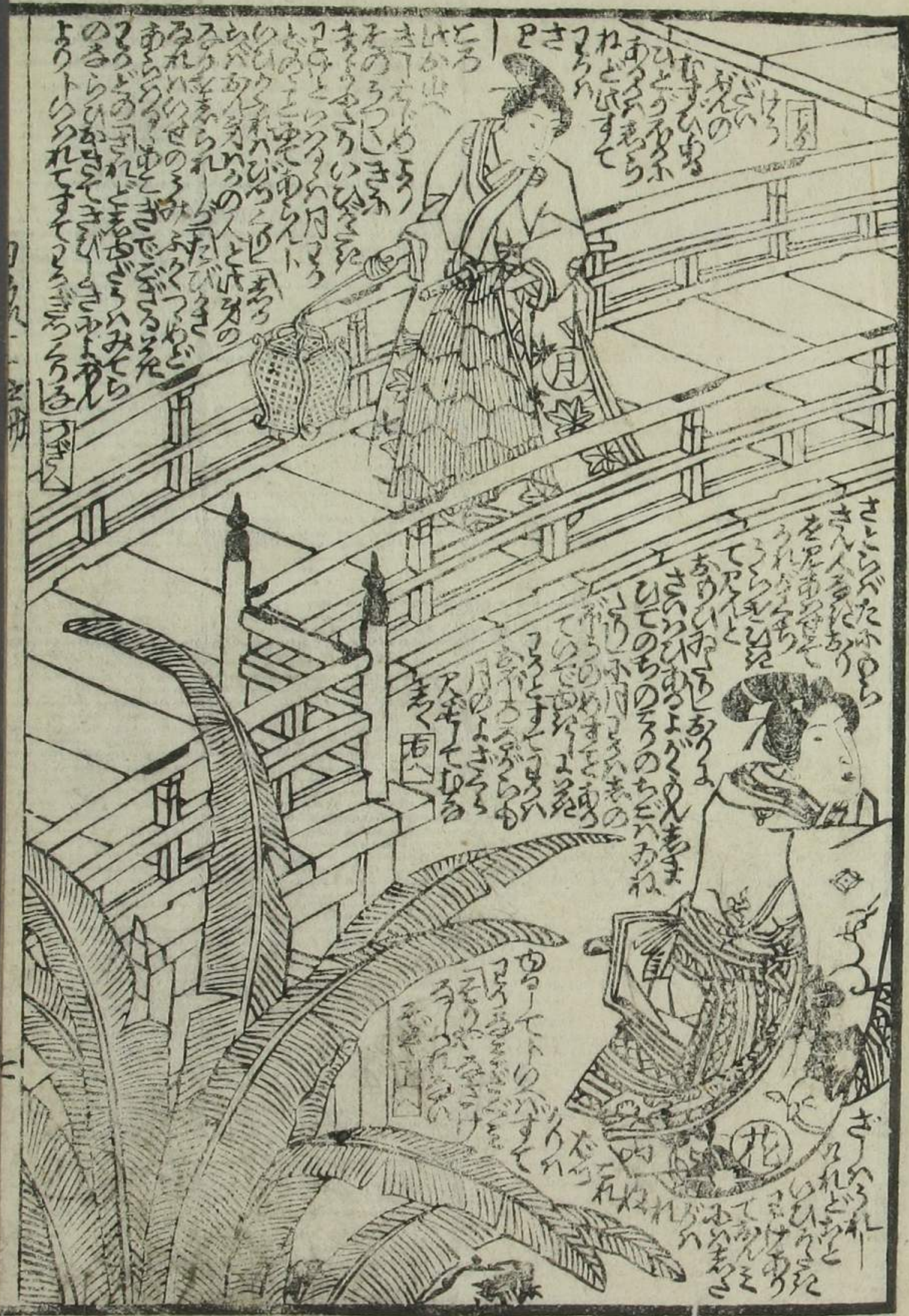
りてのうひの  
あみひとあかみ  
ふくかつかつみとる  
夜下



白雲子集

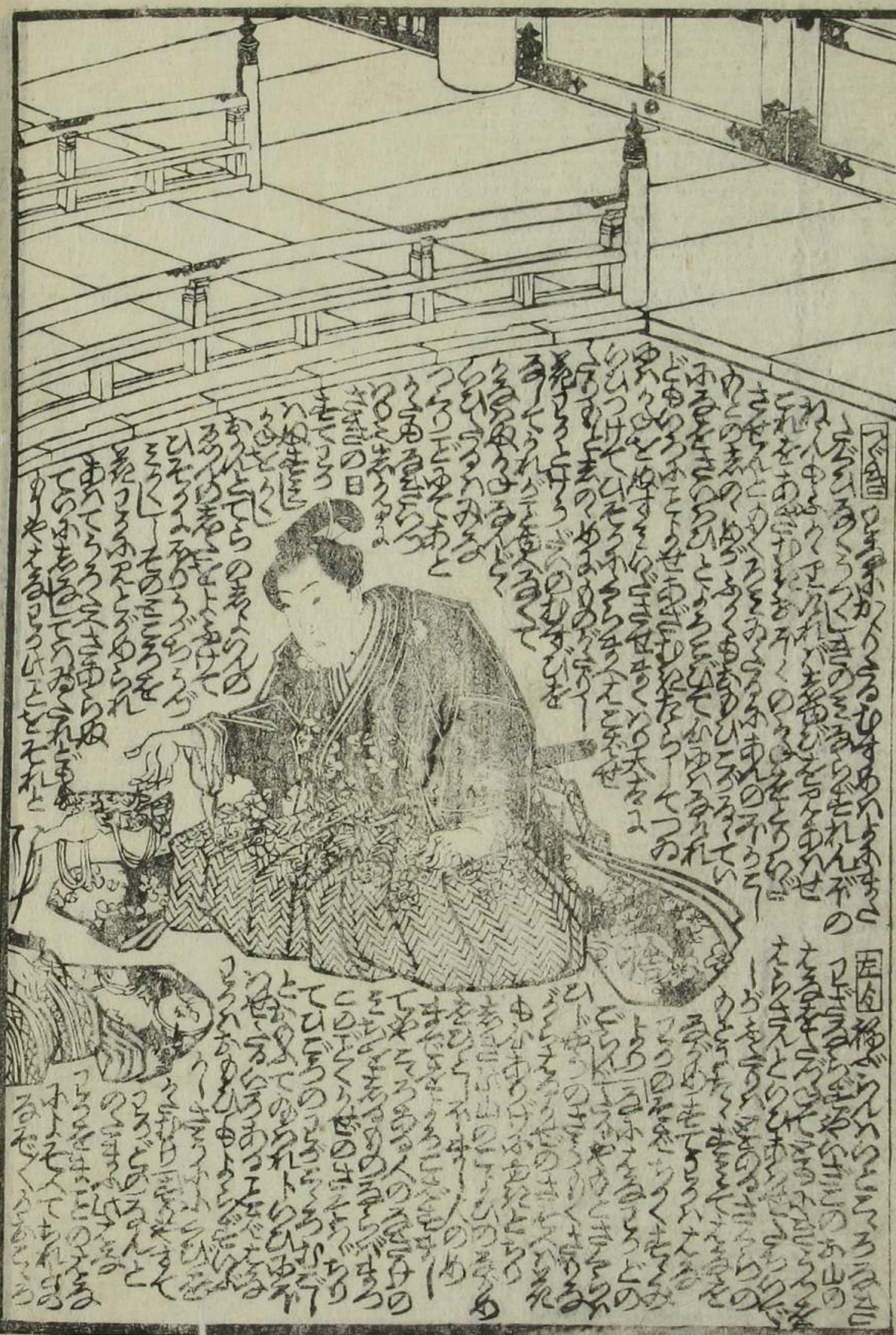






きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに

さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに



けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん

さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて

けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん  
けいさく  
まじり  
そのついでに  
きんぎょの  
あつちの  
ねとびすて  
さつしん

きんぎょ

けいさく

目録

此の月日は...  
 花の匂い...  
 月影...  
 風...  
 雲...  
 鳥...  
 虫...  
 草...  
 木...  
 石...  
 土...  
 空...  
 水...  
 火...  
 金...  
 木...  
 土...  
 金...  
 木...  
 土...  
 金...

此の月日は...  
 花の匂い...  
 月影...  
 風...  
 雲...  
 鳥...  
 虫...  
 草...  
 木...  
 石...  
 土...  
 空...  
 水...  
 火...  
 金...  
 木...  
 土...  
 金...  
 木...  
 土...  
 金...









あらしみ  
の  
い  
は  
ら  
し  
み  
の  
下

あらしみ  
の  
い  
は  
ら  
し  
み  
の  
下



Handwritten text at the top of the left page, including the characters "二三", followed by several columns of vertical text.

Handwritten text at the bottom of the left page, including the character '捨' (shite) written in a box.

Handwritten text at the top of the right page, including the characters "二三", followed by several columns of vertical text.

Handwritten text at the bottom of the right page, including the characters '二三'.

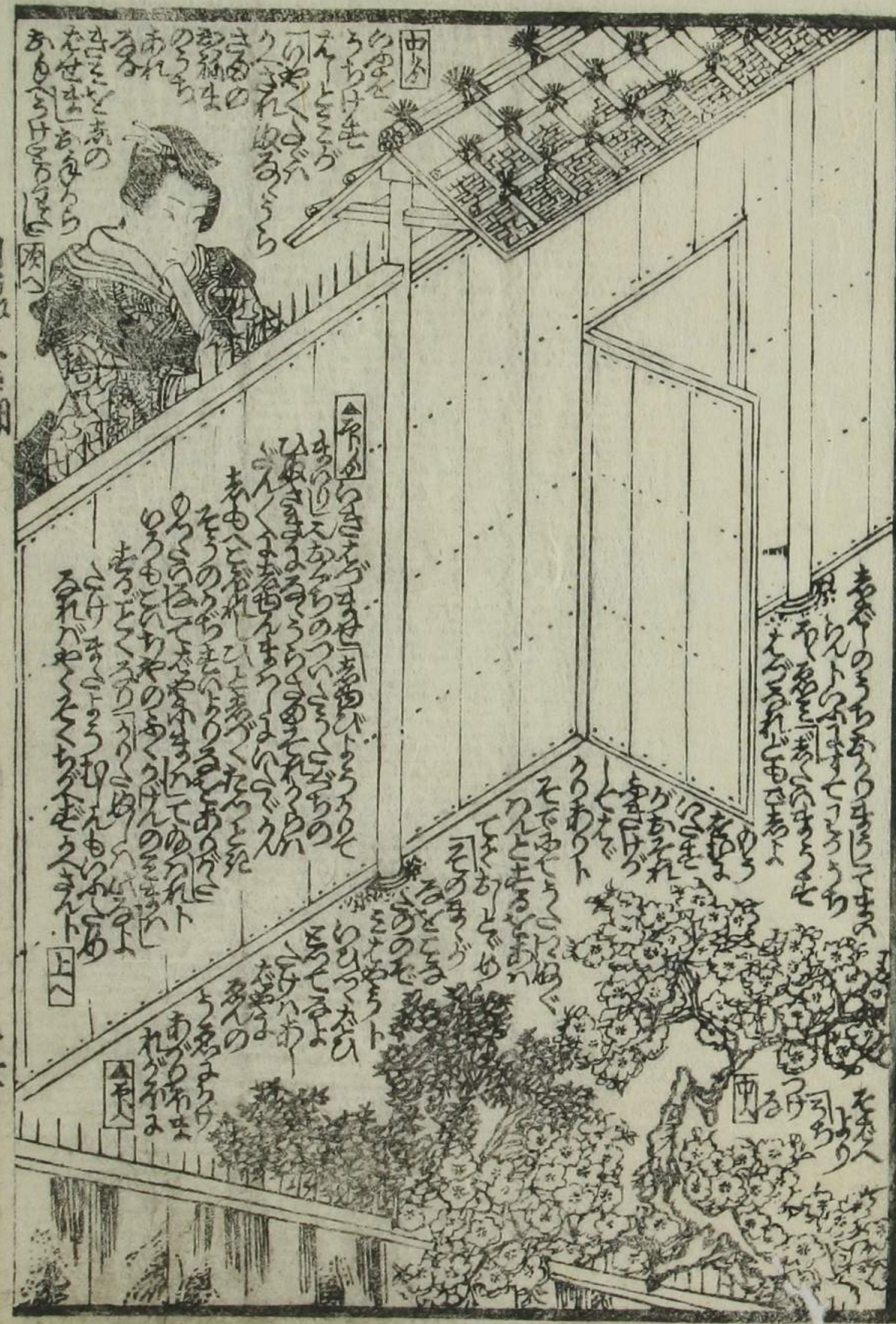












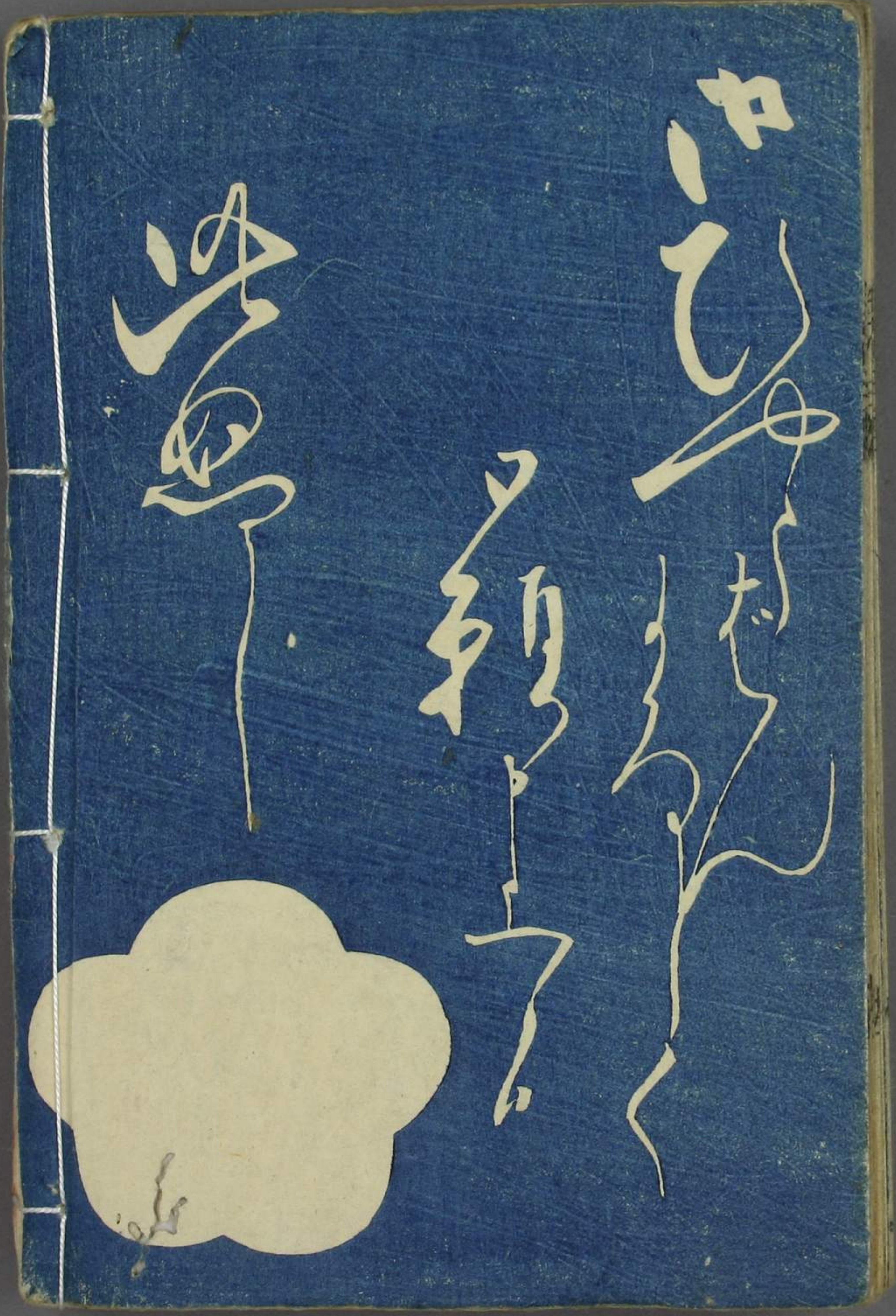












中元

朝

思

